

女性 経営者 に聞く!

一般社団法人 tenten 代表理事

藤本 菜月 氏



転入者の視点からひらく、
福島における女性の
働き方とまちづくり

1. tenten の立ち上げ

私は石川県小松市出身です。大学卒業後は農林水産省に勤務していました。福島県出身の同僚と結婚し、Uターンを希望した夫とともに退職し、平成19年に福島県へ引っ越してきました。

最初に暮らした南会津町では、知人もおらず、地域との接点をつくることに難しさを感じ、孤独な日々を過ごしました。さらに、夫から「南会津での生活は期間限定で、その後も定期的に転勤がある」と告げられ、自分自身のキャリアプランを描けなくなってしまいました。

移住促進の支援制度は存在していても、転入後のサポートがほとんどないこと、そして女性活躍が叫ばれる中で、活躍したくてもできない女性がいることに、当事者として初めて気づかされたのです。

この経験をきっかけに、同じように福島へ転入してきた女性たちが、孤立せずに地域や社会とつながれる場をつくりたいと考え、2018年に「転入女性が暮らしやすい福島づくりプロジェクト」を開始しました。2020年には「一般社団法人 tenten」として法人化しました。

tenten という名前には、「転入」「転勤」という状況を、前向きな経験に変えていきたいという想いを込めています。



転入女性交流会の様子

2. 女性たちの働き方の選択肢

tenten では、仲間や地域とつながるきっかけづくりとして、転入女性を対象にした交流イベントを県内各地で、これまで約180回開催してきました。活動を始めて7年が経ち、SNS でつながる女性は延べ1,000人を超えています。

その中で見えてきたのが、女性の「働き方の選択肢」の必要性です。特に転入女性は、転入を機に仕事を辞め、家事や育児を一手に担っている方が多く、キャリアやスキルがあってもフルタイムで働けないケースが少なくありません。また転勤族の方は、場所を選ばずにできる在宅ワークを求める傾向があります。

そこで tenten では、交流イベントの開催にとどまらず、仕事や学びにつながる仕組みづくりにも力を入れてきました。たとえば、Web ライティングや SNS マーケティングなどのスキルを学ぶ機会をつくり、フリーランスや在宅で働くためのきっかけを提供しています。また、自治体や地域事業者の業務とマッチングする取り組みも行ってきました。

さらに職業紹介業の許可を取得し、転入者と地域企業のマッチングもスタートしています。仕事のマッチングを通じて感じたのは、地方には「人手が足りない仕事」と「力を発揮したい人」が確かに存在しているにもかかわらず、両者が出会う仕組みや、マッチするための雇用形態が不足しているということです。

正規か非正規かという二択ではなく、業務委託やプロジェクト単位の関わり方を柔軟に組み合わせることで、地方でも女性の多様な働き方は実現できると実感しています。一方で、その「働き方の選択肢をつくる難しさ」を、私自身も経営者として痛感しています。

これからは、その選択肢をつくるお手伝いをすることで、転入者をはじめとする女性の活躍の場を、さらに広げていきたいと考えています。

3. 転入者の視点を活かしたまちづくり

tenten の活動で大切にしているのが、地域と win-win の関係になることです。転入者ならではの「外からの視点」には大きな価値があると信じ、その視点をまちづくりに活かしたいと考えてきました。

最近、「地域に長く暮らしていると見えなくなる福島の魅力について、転入者から教えてもらいたい」という問い合わせをいただくことが増えています。そこでこの問いに応えるべく、2025年4～5月にかけて「移住・転入者から見える福島に関するアンケート調査」を実施しました。コミュニティの75名の方に回答いただき、データをまとめています。

転入者が魅力に感じているのは、福島の「自然の豊かさ」「食材のおいしさ」「人の良さ」です。特に首都圏からの転入者は「自然の豊かさ」に強い魅力を感じています。また、「自然」「温泉」「食」「東京へのアクセス」「都会と田舎のちょうどよさ」というすべてを満たす複合的な魅力こそが、福島の移住促進における PR ポイントであることが見えてきました。

一方で、「福島には何もないと盛り上がるのはやめたほうがいい」「福島の人はずっと福島に自信を持ってほしい」という意見も寄せられました。「福島は何もなくていい。魅力はある。福島の人に足りないのは福島に対する自信だ」—そんなメッセージが浮かび上がる結果となりました。



福島県主催の移住者交流会を企画運営。伊達市の Berry's garden で桃狩りを実施



tentenのスタッフは全員が転入者もしくはUターン者です

私たち転入者の目線が、福島の人たちの自信につながり、「福島には何もない」という言葉がなくなっていくことを願っています。きっと皆さんの心の中には、「福島にはこれがある!」という思いがあるはずです。この春、皆さんの周りに転入してくる方がいたら、その「福島にあるもの」を胸を張って教えてあげてください。

転入者の視点と女性の多様な働き方は、地域や企業に新しい可能性をもたらします。

tentenはこれからも、地域に来た女性たちの『入口』となり、誰もが居場所と役割を持って自分らしく一歩を踏み出せるきっかけを、皆さまと共にデザインしていきます。

